

渋谷区における CKD地域医療連携の取組み

高橋 俊雅¹²³ 豊田 道明²

- 1 望星新宿南口駅前クリニック
- 2 社団法人渋谷区医師会
- 3 順天堂大学腎臓内科

日本腎臓学会

COI 開示

筆頭発表者名: 高橋 俊雅

開示すべきCOIはありません。

アウトライン

1. 渋谷区の地理的特徴と医療環境
2. 渋谷区民の受診動向
～渋谷区周辺の30病院アンケート調査から～
3. 渋谷区におけるCKD地域連携の取組み
4. 地域の腎臓専門医に与えられた役割を考える

1. 渋谷区の地理的特徴と医療環境

2. 渋谷区民の受診動向

～渋谷区周辺の30病院アンケート調査から～

3. 渋谷区におけるCKD地域連携の取組み

4. 地域の腎臓専門医に与えられた役割を考える

渋谷区医師会のご紹介

中野区

新宿区

新宿駅

✓ 会員数 ; 500名 A会員 ; 300名 内科標榜 ; 212医療機関

✓ 渋谷区医師会の特徴 「顔の見える医療連携」

区内の病院を中心に勉強会・学術講演会・医療連携会が多く開催されている。（年間 80回・延べ参加者 2500名以上）

渋谷区

世田谷区



恵比寿地区

恵比寿駅

品川区

渋谷区は、新宿・渋谷・恵比寿まで都心の繁華街 ～周辺には緑も多く、住宅街ある～



新宿

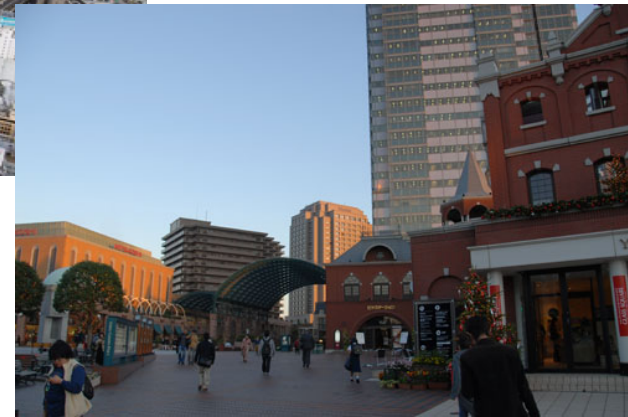
明治神宮
代々木公園

渋谷ヒカリエ



原宿

渋谷



恵比寿

住宅地

初台、幡ヶ谷、笹塚、本町
代々木、千駄ヶ谷など

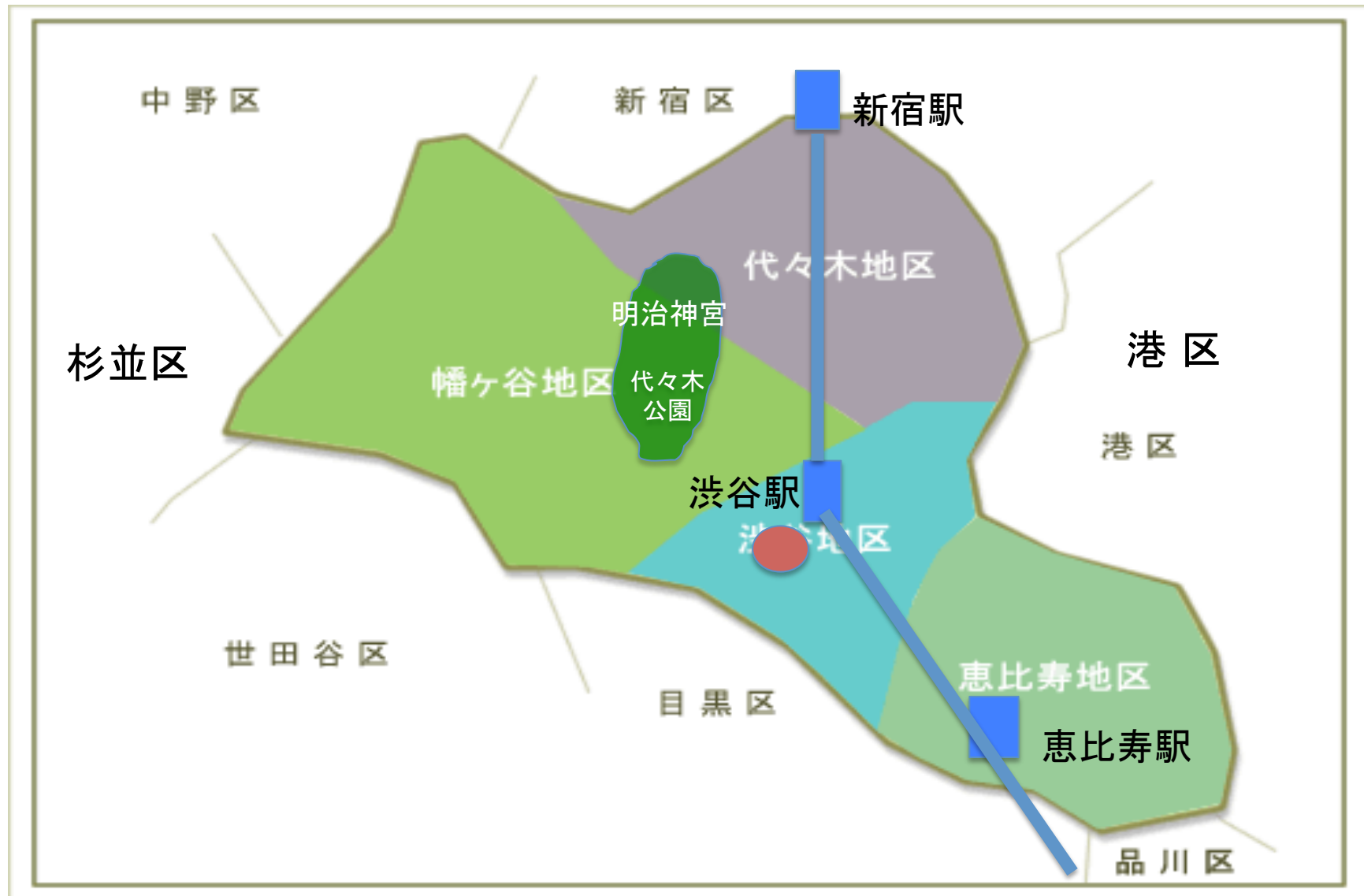
神宮前、上原、大山町
西原、富ヶ谷、松濤、など

渋谷、桜ヶ丘、丸山町、南平台
猿楽町、東、広尾、恵比寿、代官山町など

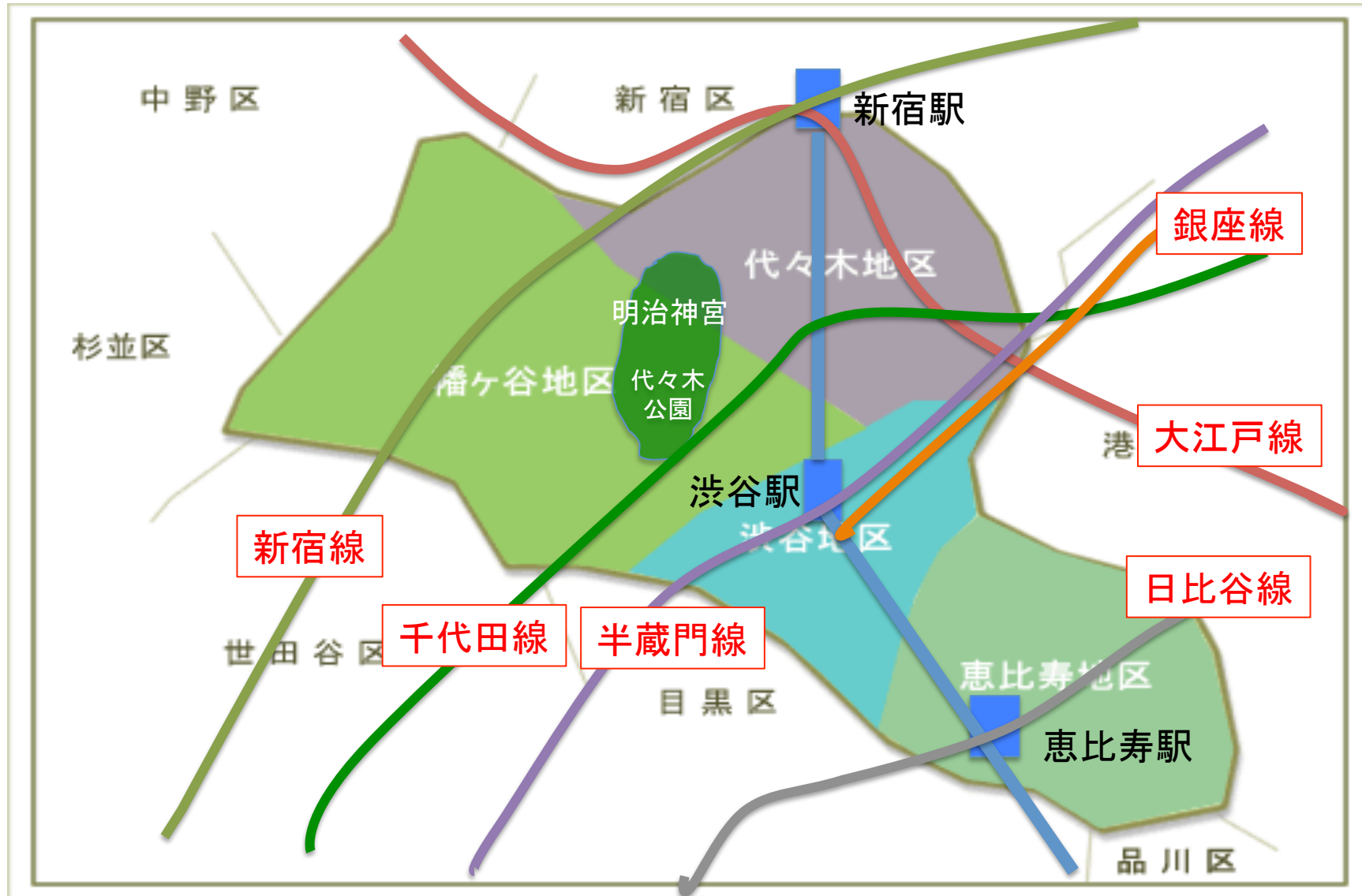
渋谷区は「区西南部」医療圏に位置している 7区に隣接



渋谷区は山手線が縦断している

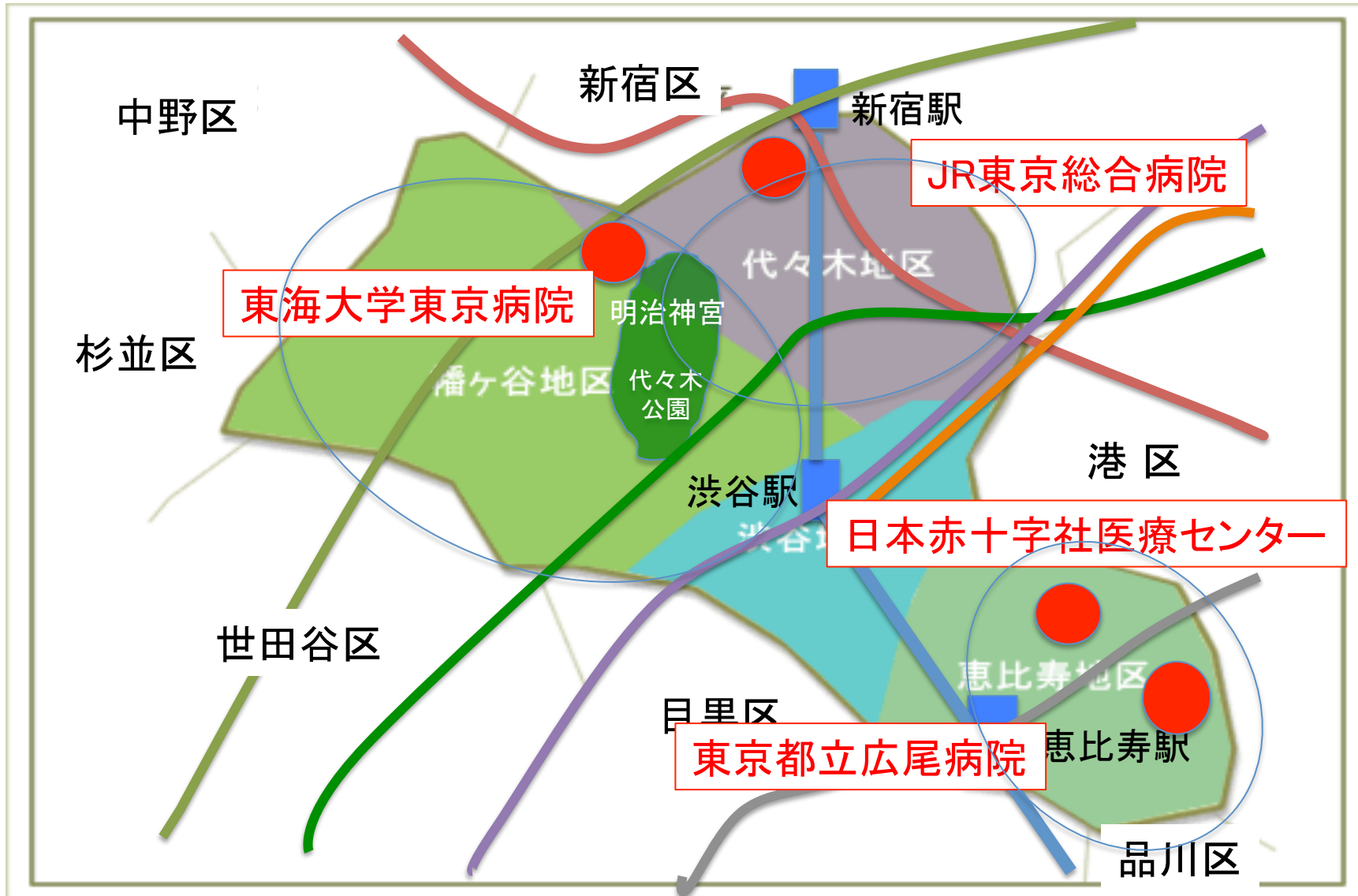


渋谷区を通る公共交通機関は多い ～地下鉄6路線が、渋谷区を「横断」している～



公共交通機関は多いが…

区内の主要病院へのアクセスはやや難がある



渋谷区近隣には、大学病院や大病院(500床以上)が多い
7大学付属病院・7病院



渋谷区の地域特性は

- ✓ 渋谷区各駅から30分圏内に多くの大学・大病院がある。
- ✓ 「かかりつけ医」に通院する地域の患者の、区内の主要病院への受診・紹介に、交通アクセスの問題がありそうである。

渋谷の10年 今昔

～変わったことと、変わらないこと～

渋谷のシンボルでもあった「五島プラネタリウム」は「渋谷ヒカリエ」に



東急文化会館 昭和31年から平成15年までの間 映画館やプラネタリウム等の文化施設として多くの人々に親しまれた
(昭和32年)

9Fに渋谷区医師会館

渋谷のシンボル プラネタリウム
「文化総合センター大和田」



渋谷区医師会は10年来、地域の「顔の見える病診連携」を進めてきた

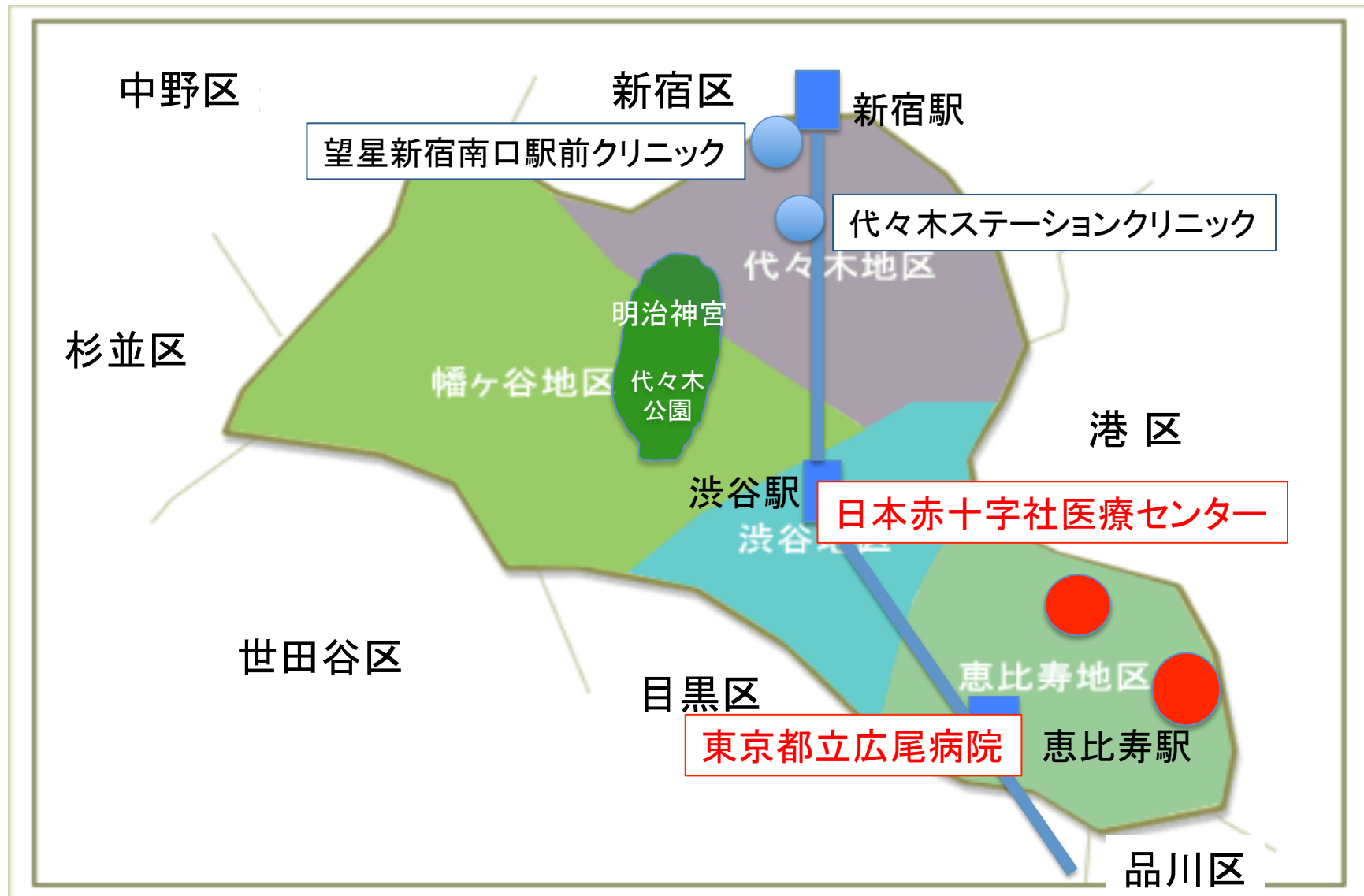
渋谷区のCKD医療の現状

渋谷区の腎臓専門医は都内では少ない

腎臓専門医	人数	人口10万人あたり
全 国	3648	2.9
東京都	700	5.3
渋谷区	10	
渋谷区内で CKD診療を行っている専門医	7	3.3

- 1) 3名の腎臓専門医は「透析施設」勤務しており、CKD診療は行っていない。
- 2) 区内に腎臓内科のある病院は2病院で、代々木・幡ヶ谷地区から受診するにはアクセスの問題がある。

渋谷区の「腎臓専門医」で 外来を行っている施設は少ない



渋谷区のCKD医療の現状

- ✓ 渋谷区の腎臓専門医は主に病院勤務であり、病院の立地やアクセスの面で、区内のかかりつけ医(非腎臓専門医)から気軽に紹介(受診)できない側面もある。



渋谷区のCKD患者は、どこに受診しているのか？
どこに紹介はされているのか？



1. 渋谷区の地理的特徴と医療環境
2. **渋谷区民の受診動向**
～渋谷区周辺の30病院アンケート調査から～
3. 渋谷区におけるCKD地域連携の取組み
4. 地域の腎臓専門医に与えられた役割を考える

渋谷区と近隣の区で 腎臓専門医が常勤でいる30施設

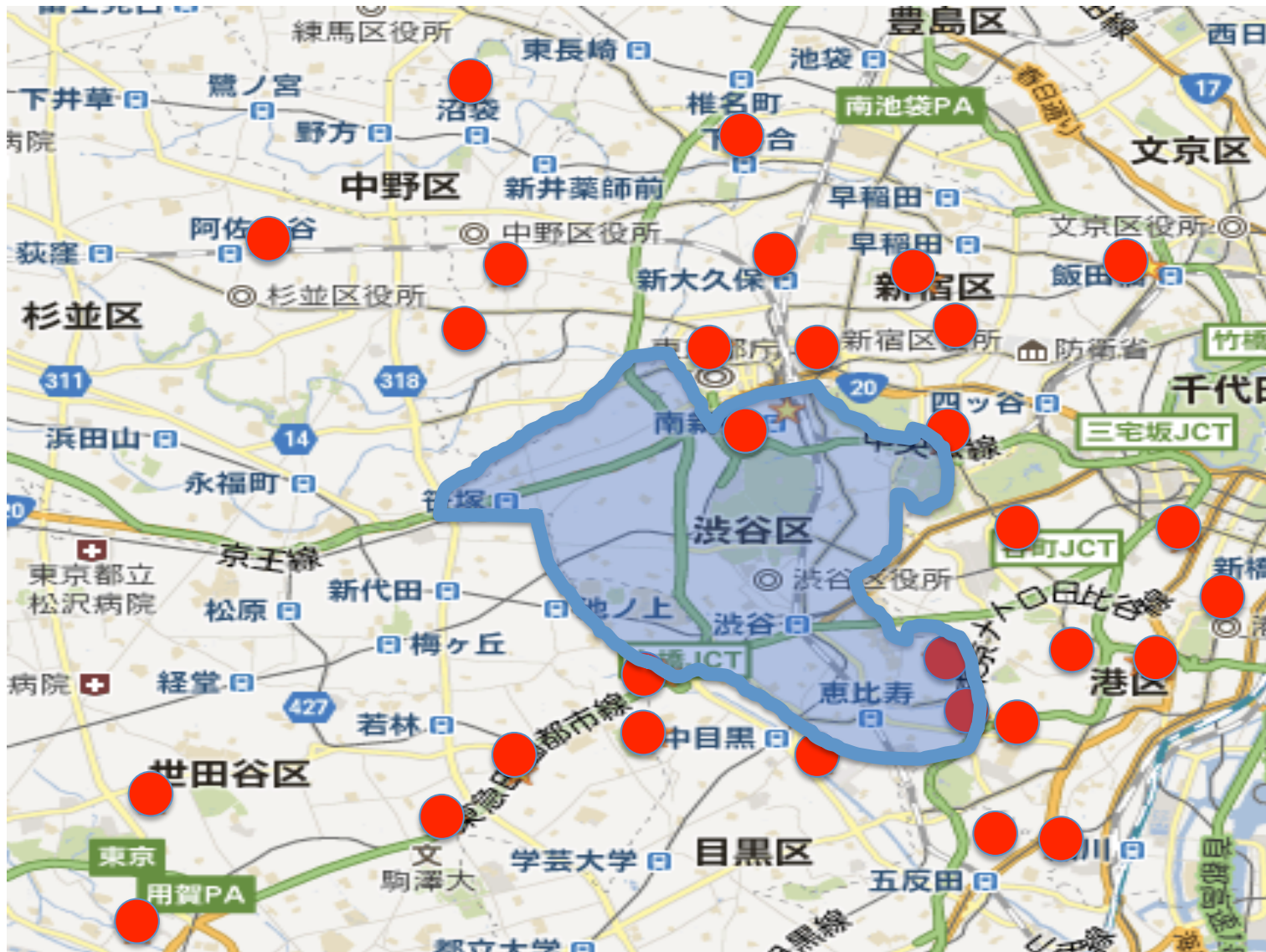
隣接する7区(目黒区,世田谷区,杉並区,中野区,新宿区,港区,品川区)
「腎臓専門医が常勤」の30病院へアンケート調査を実施

(期間) 2012年4月～12月の外来受診者

(内容)

1. 渋谷区民の受診 (全科の受診実数で比較)
2. 1.のうち「腎臓内科」の受診
3. 渋谷区内の「かかりつけ医」から紹介で腎臓内科を受診

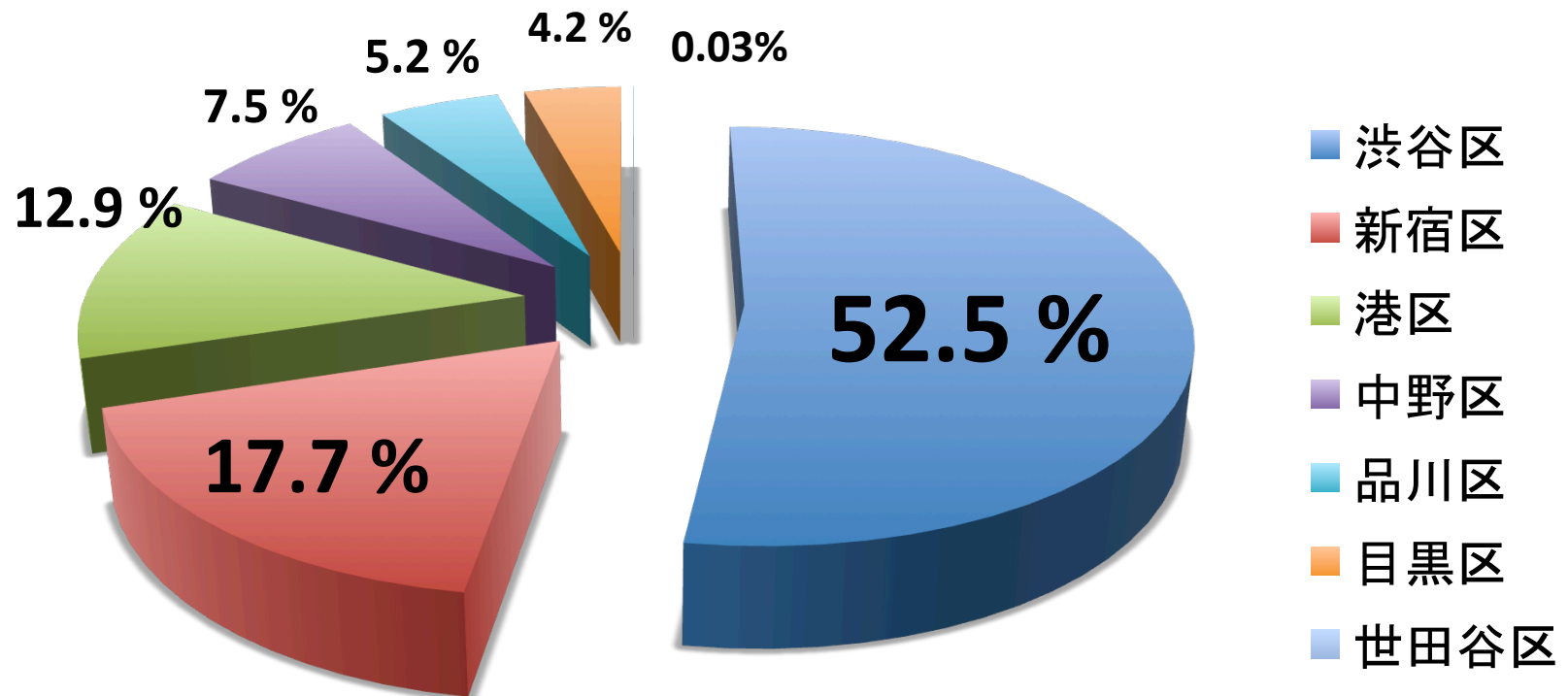
渋谷区と近隣区における 腎臓専門医が常勤(外来)30施設



渋谷区民の受診動向

近隣区30病院のアンケート調査から

アンケート回答21施設へ
渋谷区民の受診実数 **92,395名**の内訳

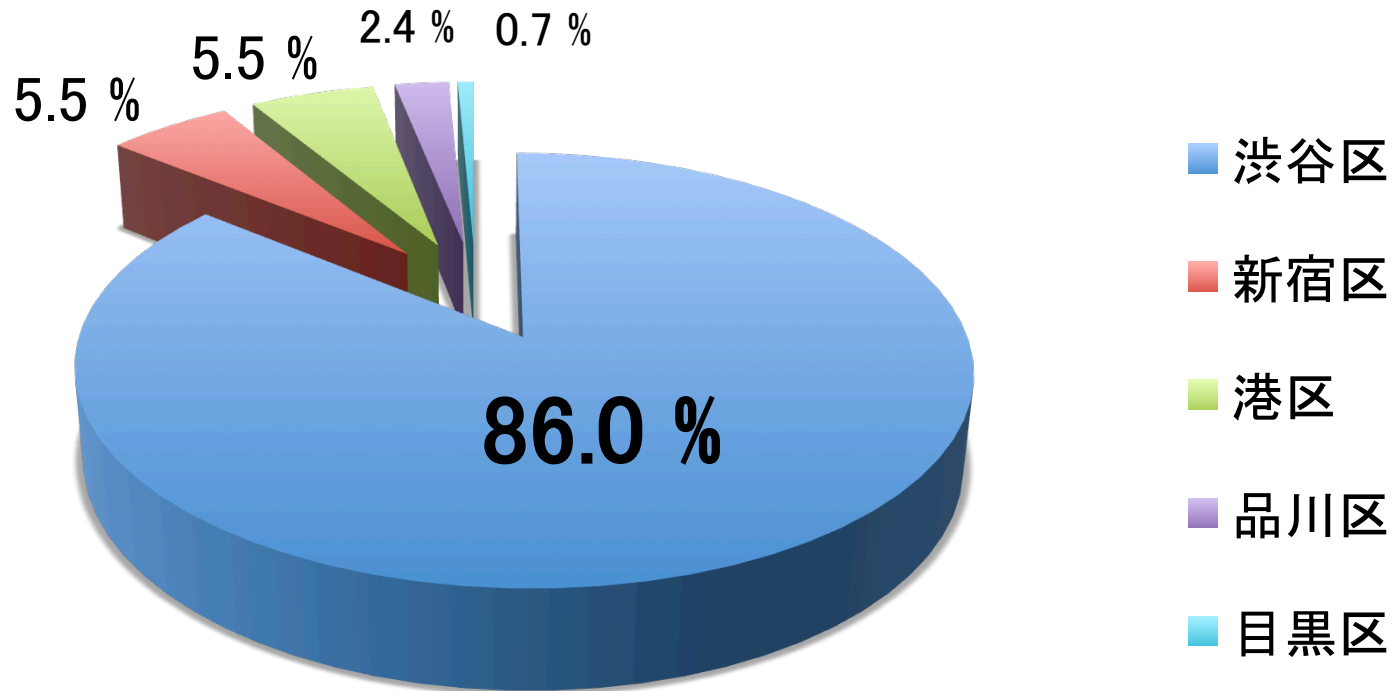


渋谷区民の**52.5%**は渋谷区内の病院に受診している

渋谷区民の受診動向

- 腎臓内科への受診数 -

アンケート回答21施設の「腎臓内科」へ受診した
渋谷区民の受診実数 6709名

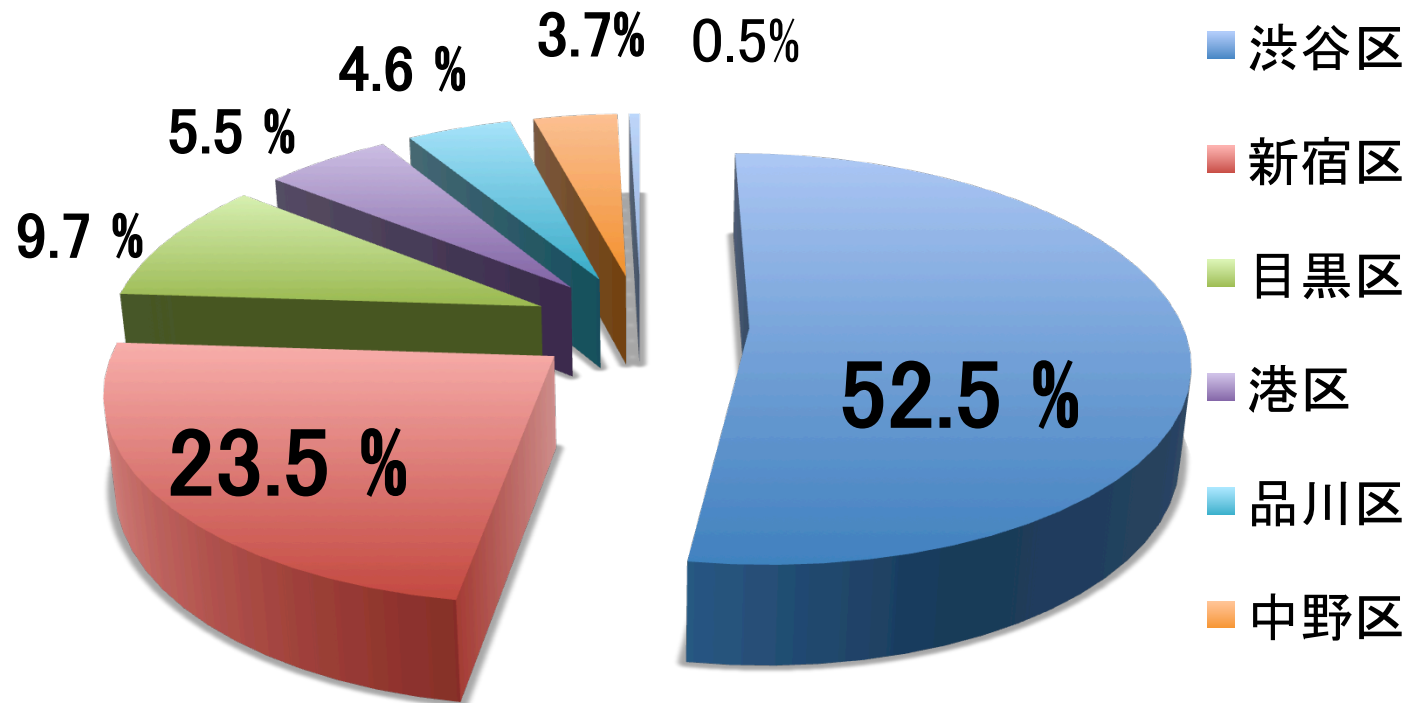


渋谷区民の86%は
渋谷区内の「腎臓内科」に受診している

渋谷区かかりつけ医の紹介

- 腎臓内科への紹介実績 -

渋谷区内のかかりつけ医から、アンケート回答21病院の
「腎臓内科」 紹介受診実数 217名の内訳



渋谷区の「かかりつけ医」の52.5%が、
渋谷区内の病院の腎臓内科へ紹介している



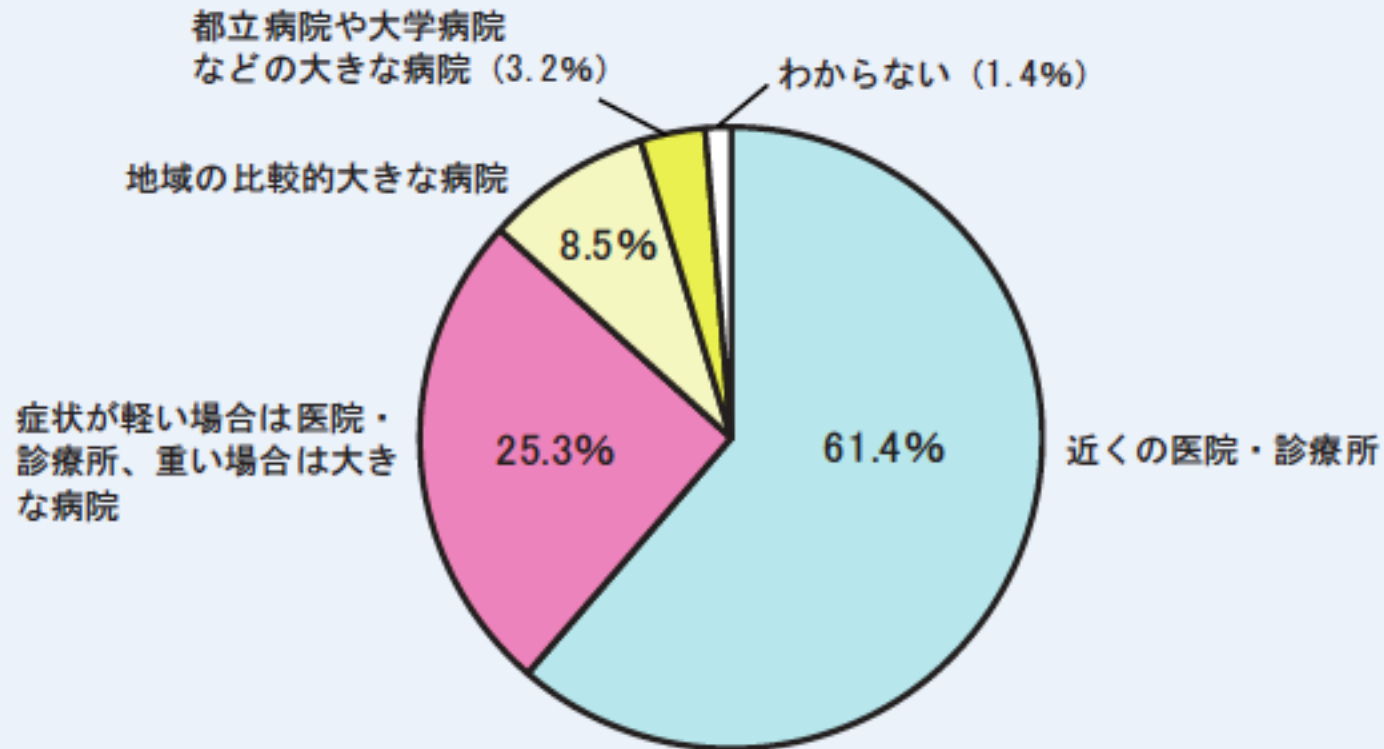
ところで

一般の方が最初に受診する
医療機関はどこが多いのか？



都民が最初に行く医療機関 近くの医院や診療所が多い

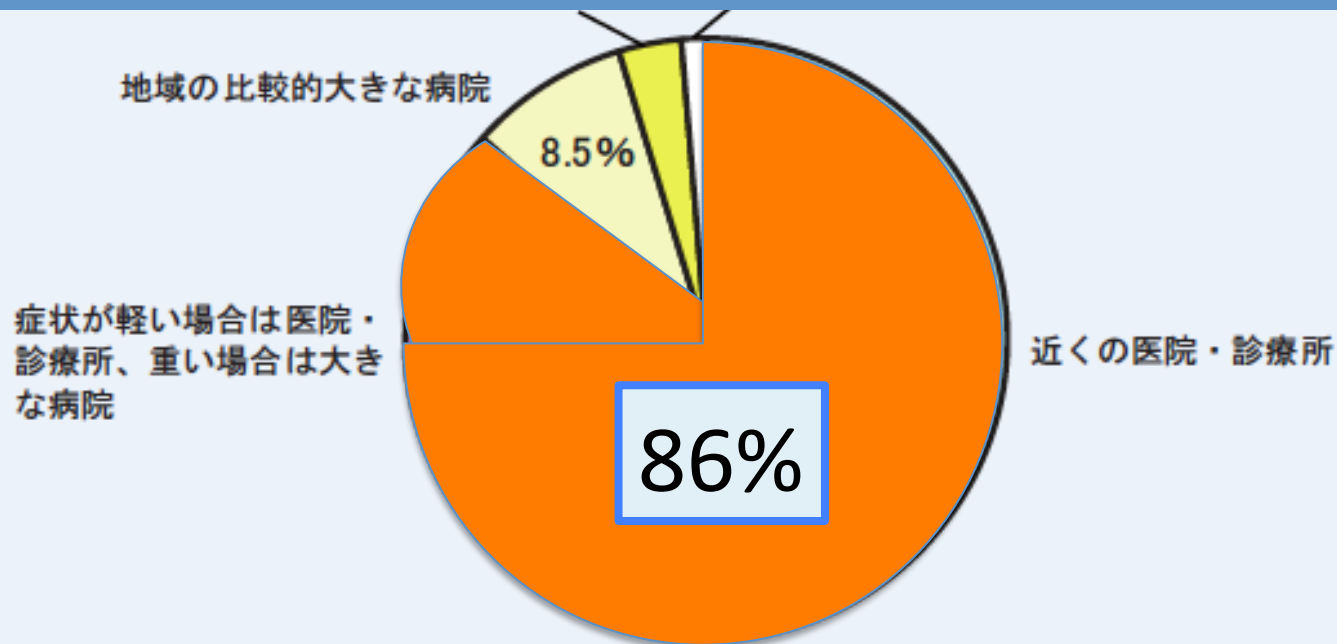
都民が最初に受診する医療機関



資料：東京都生活文化局「保健医療に関する世論調査」（平成23年10月調査）

症状のないCKD患者は、地域のかかりつけ医に通院している可能性が高い

自覚症状が無いか軽い場合
86%が近隣のクリニックに初診する



無症状のCKD患者の多くは、地域のかかりつけ医に通院していることが予想される。

渋谷区のCKD医療の現状

- ✓ 無症状のCKD患者の多くは「かかりつけ医」が見ている可能性が高い。

1. 渋谷区の地理的特徴と医療環境
2. 渋谷区民の受診動向
～渋谷区周辺の30病院アンケート調査から～
3. **渋谷区におけるCKD地域連携の取組み**
4. 地域の腎臓専門医に与えられた役割を考える

「かかりつけ医」のCKD医療連携の ハードルになっている要因はなにか？

～渋谷区医師会のアンケートから
解決できる要因を探る～



「かかりつけ医」が腎臓専門医に期待することは

～渋谷区医師会の会員アンケートから～

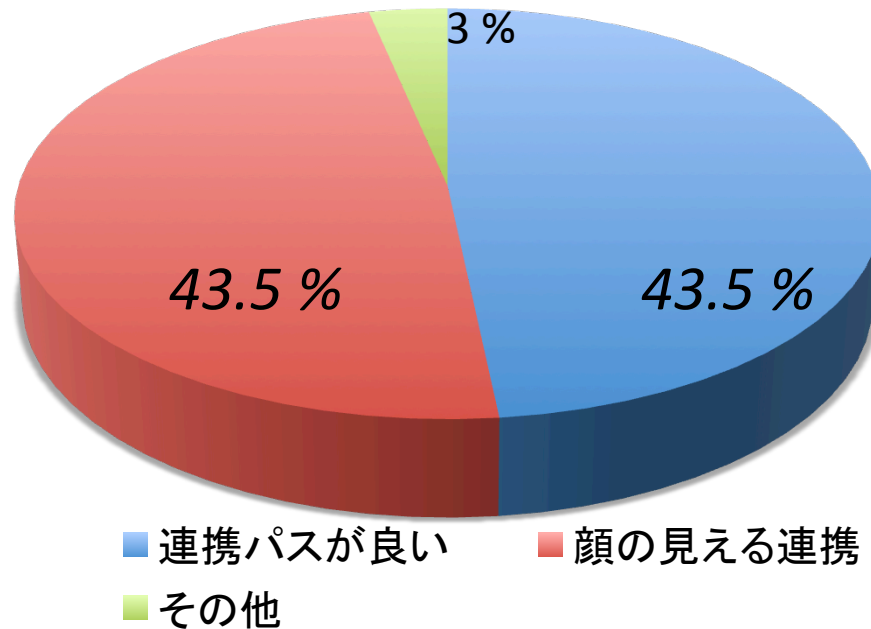
治療方針の確認	65,2 %
自覚症状(浮腫など)の改善	17,4 %
検査値の改善	34,7 %
腎生検	13,0 %
画像診断など検査	26,1 %
医師からの患者指導	47,8 %
食事指導	26,1 %
その他(透析の準備)	4,4 %

指導
74 %

腎臓専門医には、治療方針の確認や指導が望まれている

CKDの病診・診診連携は？～渋谷区医師会の会員アンケートから～

「顔が見える連携」であれば連携パスでなくても良い



開業医の視点からの御意見

「全く知らない先生にお願いするのは気が引ける」
「紹介したら、戻ってこない」

「かかりつけ医」のCKD連携に関する 率直なご意見

- ✓ 腎臓専門医が近くにいない ⇒どこに紹介していいか分からない
- ✓ 患者へ次回検査・受診のスケジュール説明がない
- ✓ 患者への説明・指導が不十分である
- ✓ 専門医の個性によって治療方針に違いがある

渋谷区のCKD医療の現状

- ✓ 無症状のCKD患者の多くは「かかりつけ医」が見ている可能性が高い。
- ✓ 「開業している腎臓専門医」ができることとして、CKD医療連携の場を提供し、気軽に相談頂くことで、かかりつけ医のCKD診療のサポートができないか…

1. 渋谷区の地理的特徴と医療環境
2. 渋谷区民の受診動向
～渋谷区周辺の30病院アンケート調査から～
3. 渋谷区におけるCKD地域連携の取組み
4. **地域の腎臓専門医に与えられた役割を考える**

渋谷区医師会のCKD地域連携

- 地域の腎臓専門医(個人)の取り組み -

- 「顔の見える連携」 かかりつけ医も患者さんも信頼を求めている
患者さんは、長年みて頂いている「かかりつけ医＝主治医」を信頼している
かかりつけ医の立場と患者さんの希望を受け入れる

- 「診診連携」 の継続 クリニックでいつでも紹介を受ける
「地域の病診連携」へ参加 東海大東京病院で外来の機会を頂く
クリニックで出来ない検査が可能であり
病院の先生と交流が、知識・技量の維持などに良い影響がある

- 渋谷区医師会 「腎臓病相談外来」を試行
 - ✓ 詳しい説明を望む方/仕事をしている方
 - ✓ 個々人の病態にあわせて、経過や対策(食事・生活習慣など)を説明する
 - ✓ 「かかりつけ医」からの質問(治療方針など)に答える
 - ✓ 病院の専門医と「かかりつけ医」への紹介・架け橋の役割をおこなう

渋谷区医師会のCKD地域連携

－ 渋谷区医師会 腎臓病相談外来の取組み －

腎臓に関する2次健診・精査・相談を、広く受けて頂けるよう

毎月第3日曜午後、1人1時間の予約外来を行っています。

平日忙しい方や詳しい説明希望に、採血・採尿・CT(必要な方のみ)

医師から食事のコツや生活指導を行います。

検査結果や治療に対するコメントなどを、後日お手紙で報告します。

場所 ; 区民健康センター桜丘 (文化総合センター大和田1F)

時間 ; 毎月 第3日曜日 13～16時

予約 ; 渋谷区医師会にお電話でお申し込みください

TEL 03-3462-2200

担当医 高橋 俊雅

内容 ; 診察 採血・尿検査 X-P/CT 医師による食事指導・生活指導

健診の異常・日常診療の疑問・患者指導の補助の場としてご利用ください。

渋谷区の「かかりつけ医」が紹介しやすい CKD外来・アクセスポイントを、H23年6月から増設

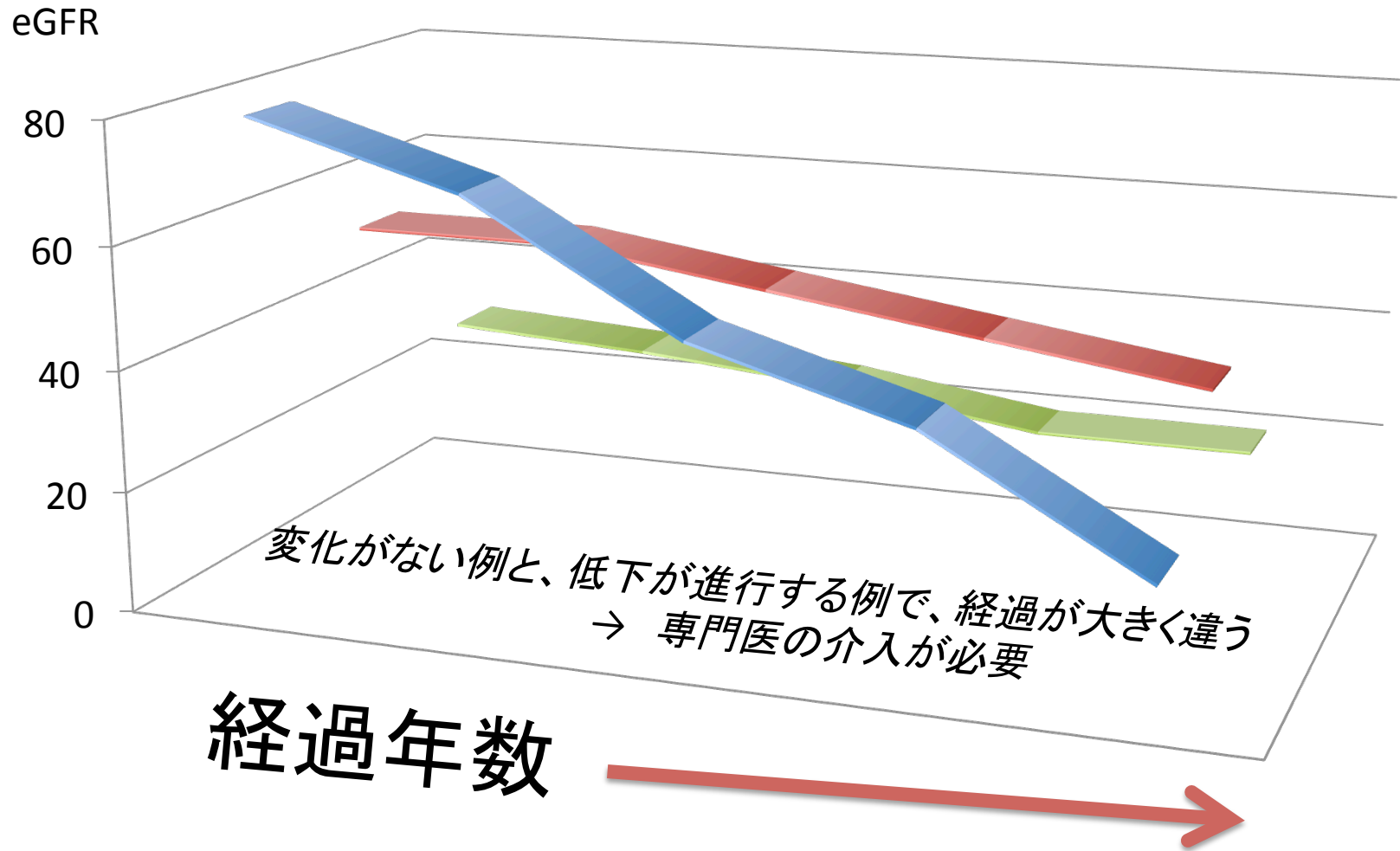


✓ かかりつけ医（非腎臓専門医）へのメッセージ

腎臓専門医へ紹介するイメージを確認するために

かかりつけ医へのメッセージ

腎臓病(腎機能)の経過は1人1人違う。



渋谷区医師会員への情報発信

-CKD病診・診診連携のパターン-

- 1) 診断や治療方針の確認で、数回の受診で終了するケース
→健診や定期検査で「尿の異常」や「クレアチニン値上昇」など、腎臓病の2次健診
- 2) 腎臓専門医が「引き継いで診療」するケース
→ネフローゼ症候群、腎生検、透析導入 などの場合

地域で求められる連携は…

3) かかりつけ医と腎臓専門医で併診するケース

かかりつけの患者さんの治療経過のなかで、

- (1) 腎疾患(腎機能低下)に関する治療方針の確認
- (2) 比較的安定した患者さんの、かかりつけ医のお手伝い

(例)腎性貧血の場合

ESA製剤適応を決定、処方やESA製剤を「かかりつけ医」で施行頂く。

→ 3ヶ月程度で、専門医を再診(初診時に予定をたてて提示する)

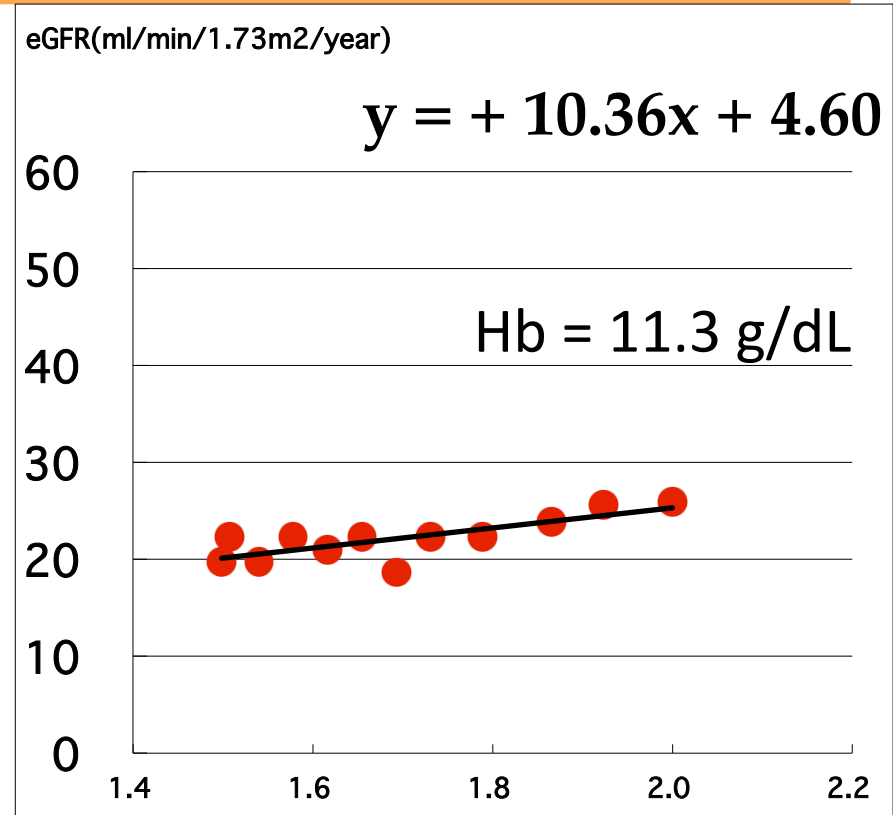
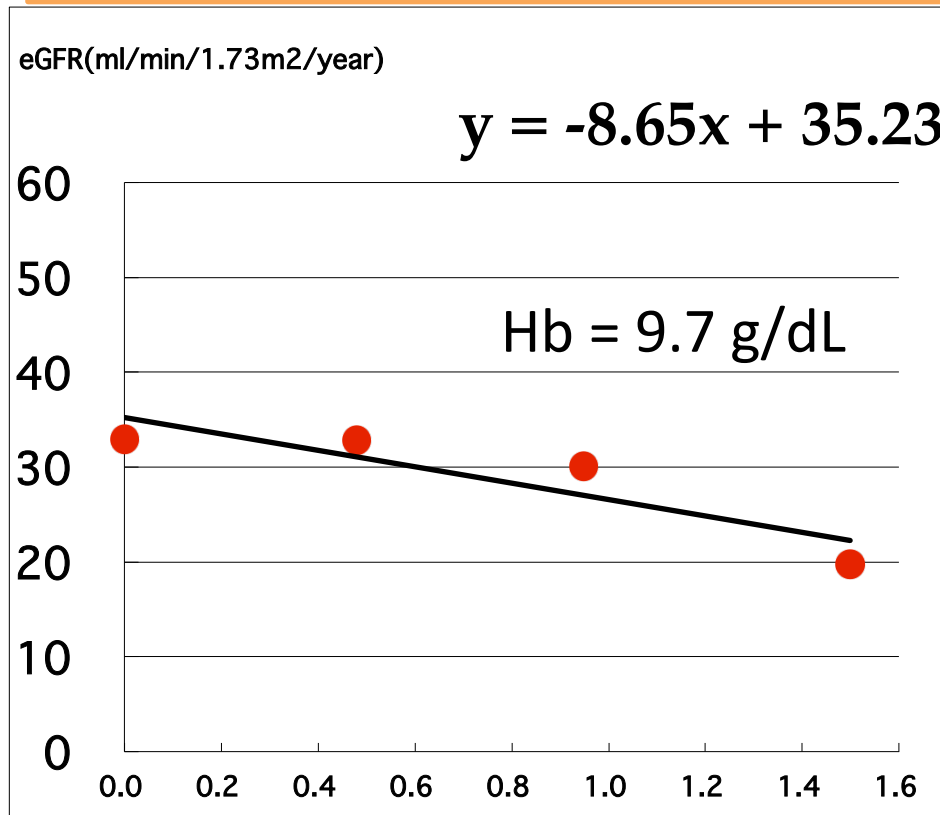
投薬調整、腎機能・合併症などをチェック

検査データにコメントを書き添え、ご紹介医へお戻しする。

紹介による対応と効果

—自己管理の意識向上、かかりつけ医の治療参加—

CKD G4で紹介された腎性貧血の一例; ESA製剤 (Darbepoetin- α 30 μ g x2/M)投与



- 1) 紹介医と患者本人に、病状の進行と治療経過をグラフで「見える化」
→ 自己管理・治療の意識付け
- 2) 患者とかかりつけ医の意向を尊重
紹介医にESA注射をお願いし、3ヶ月程度で専門医が再診。

まとめ

- 渋谷区は東京都心部で、5Km圏内に腎臓専門医のいる病院が多くあるが、地域のかかりつけ医(非腎臓専門医)は、区内の病院に多くの紹介している。一方、渋谷区には腎臓専門医が少なく、かかりつけ医(非腎臓専門医)のCKD連携のアクセスポイントが少ない。東京でもCKD連携は地域医療連携である。
- 腎臓専門医の役割は、地域に密着した「顔の見える」連携を通じて「かかりつけ医(非腎臓専門医)の意識を高める」「地域のCKD連携の中継」を行なうことが重要と考える。
- 「地域のかかりつけ医」の声から、腎臓専門医側にもCKD連携に対する一定のコンセンサスが必要と思われる。

結 語

- CKD地域連携には 「顔の見える連携」 が重要であり、地域特性にあわせた連携を構築する必要がある。
- 地域の腎臓専門医は、「信頼の絆」をもとにしたCKD連携でかかりつけ医(非腎臓専門医)からの相談や病院の専門医への紹介など、地域のCKD診療の中核として役割を果たすことが求められていると考える。